



HOCHIKI 自動火災報知設備

安心・安全を維持するためにリニューアルをご検討ください



大丈夫
ですか？

故障する前に…

早めの**リニューアル**を！

※人命・財産を守るために必要な設備です

経年劣化・老朽化対策



リニューアルで
トラブルに備える！

補修用部品の供給終了



お使いの設備の不安や困り事(誤報が多いなど)
現状の予算・計画についてぜひご相談下さい！
建物の規模や用途に合わせてご提案いたします！

多様な最新設備へリニューアル

P型
2級



●かんたん施工
シンプル構造
RPPシリーズ

P型
1級



●音声ガイダンス
機能搭載
RPWシリーズ

GR型



●液晶タッチ
パネル採用
HRRシリーズ

新技術の導入により視認性・操作性アップ 安心・安全をより一層確かなものとしします

ご使用の火災受信機に関するお知らせ

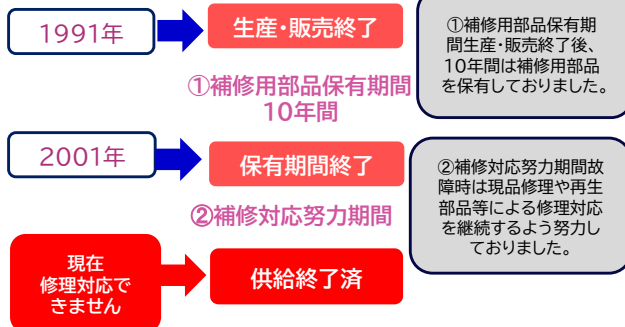
進行する経年劣化・老朽化対策

防災システム不具合発生率グラフ



●防災設備は24時間常時稼働しています。相当な負担がかかっており、劣化、老朽化が確実に進んでいます。定期的な点検・整備を行うだけでは、老朽化を防ぐことはできません。貴建物の防災設備については、設置してから長期間経過しており、今後、故障頻度上昇が見込まれることから、維持管理がますます難しくなっていくと思われます。

火災受信機の補修用部品の供給体制



更新の目安 火災受信機の更新時期の目安は15年です。火災受信機故障時の対応方法(例)

火災受信機 (RPL)



- 火災受信機(電子部品使用) 15年
※RPL等黒色の受信機は20年
- 煙式感知器 10年
- 熱式感知器(半導体式) ... 10年
- 熱式感知器 15年
- 発信機 20年
- ベル 20年

火災受信機の補修用部品が入手できない状況で、万が一、監視ができなくなった場合、下記のような対策が必要となります。

- A:壁掛け型P型受信機を、必要数設置する。
- B:設備員等による24時間の警戒・監視を行う。

予算外の
コストが発生

抜本的な対策

□最新の機器に更新

補修用部品の供給サポート対象となり、「修理できないリスク」を排除
最新放棄への順応と最新技術搭載機器の導入
既設メーカーの互換性能を活かし、安全で無駄がない工事の実現

正常な監視が維持できている今だからこそ、
計画的な設備更新のご検討をお願い申し上げます。

新技術・新規格の導入

- 自動火災報知設備
 - ・自動試験機能 (1995年)
 - ・地区音響の逐次鳴動・拡大警報 等 (1997年)
- 非常放送設備
 - ・音声警報、非火災放送、スピーカー設置基準変更 等 (1994年)
 - ・拡大鳴動機能 (1997年)
 - ・緊急地震速報の規格 (2009年)

※上記は選定する機種、提案内容によって変わります。この他にもいろいろな防災受信機がありますので、詳細につきましてはお問い合わせ下さい。



本 社 〒107-8511 東京都港区元赤坂1-6-6

<https://www.alsok.co.jp>

ALSOK 検索

お問い合わせ

●本チラシは2025年7月に制作されたものです。